

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472200443
法人名	社会福祉法人 鶴寿会
事業所名	グループホームさわやか
所在地 (電話番号)	宮城県柴田郡川崎町大字川内字笹畑8番3 (電話) 0224-84-6505

評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 19年 9月 21日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット
利用定員数計	9 人
職員数	9 人
	常勤 7人, 兼務 2人, 非常勤 人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	造り	
	1 階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低 65 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国民健康保険 川崎病院(内科・外科・歯科)
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

公共交通機関の便は良いとはいえないが、町内バスが走行しており、このバスを利用することにより地域の人たちと顔を合わせる機会があり交流に役立っている。ホームは緑豊かな環境の中にあり、敷地内には軽費老人ホームと特別養護老人ホームがある。職員の異動があるが入居者が隣接している他の施設に移った場合でも顔なじみの職員がいて安心感があるとポジティブに捉えている。杉の木材をふんだんに使った回廊型の造りで、居室の入口ごとに彫りの違う欄間が高級感を醸し出している。白炭を利用した循環型の自然涼風と冬は床暖房で快適に過ごせるエコロジーに合った空調になっている。職員と入居者が一緒に清掃することで、居室はもとより、廊下やトイレに至るまで掃除が行き届き全体に清涼感に溢れ、温かみのある雰囲気好感が持てる。「一人ひとりに寄り添うケア」がなされており、入居者の表情が明るく信頼関係が築かれている。同業者との交流や地域との交流もスムーズに行われているが、地域的な環境により近隣の住民との交流が希薄なのが今後の課題である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	自ら提供する介護の質の評価を行うとともに、定期的に外部の評価を受けて改善を図っている。具体的には前回の外部評価で指摘された安眠の支援については、チェックシートを作成して睡眠のパターンを職員全員で把握し、服薬についても一冊にまとめてダブルチェックするなど改善され、支援に役立っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員で話し合い、管理者と計画作成担当者がこの一年を振り返って自己点検し計画作成担当者がまとめたものである。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	第一回の運営推進会議は昨年9月21日に開催され、2ヶ月ごとに行われているが、今後は入居者とその家族も参加できるように期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	介護計画書や日常生活の様子について写真を添えて家族に報告し、介護計画の見直しについても家族の意見を取り入れて作成されている。苦情については玄関に苦情受付箱が設置され、重要事項説明書に明記されている行政機関、その他苦情受付機関を玄関にも掲示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	川崎町の昔ながらの行事、地域のお祭りや運動会に参加している。保育所の運動会に招待されたり地区の高校生が清掃やガラス拭きのボランティアに来てくれて交流をしている。町内会には入っていないが、地区長が広報を届けてくれるので連携は取れている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念はあるが、地域密着型の独自の理念はこれから作り上げる為に早急に検討することなので、入居者本位の地域密着の意味を考えた独自の理念にしていきたい。	○	職員全員で考えを共有し、見えるかたちにして地域住民との交流に活用していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の「一人ひとりに寄り添う自分らしい生活を」毎朝全員で唱和し、入居者の立場に立った生活の支援の実践に役立てている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	川崎町の行事「支倉常長祭り」「町民祭り」「町民運動会」などに参加し、地域の保育所、小学校の行事にも参加している。地元の高校生に、清掃やガラス拭き等のボランティアに来てもらい交流しているが、地域性の問題もあり、近隣の住民との交流がやや希薄である。	○	地域交流の努力はされているが、毎月発行される「さわやかだより」を個別に訪問して届けるなどして、馴染みの人や地域の人に来ていただいてお茶のみなどの交流、協力関係に結びつくように努力していただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、日常のサービスの質の自己点検として全員で取り組んでいた。前回の評価での改善事項を全員で見直し、服薬シート「薬はやみ表」を作成して統一したケアが出来るようになるなど改善の努力が見られる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の9月より2ヶ月に一度ずつ開催されており、参加者は民生委員長、川内一区长、保健福祉課課長、在宅介護支援センター、保健福祉課、鶴寿会理事長、鶴寿会常務理事、グループホームさわやか事務局長で構成されている。会議での意見交換をサービスの質の向上に活かすように努めていただきたい。	○	議事録は作成されているが、入居者と家族の参加がなく地域への公表がなされていないので、今後は家族、地域へも公表し、助言や意見を吸い上げてケアの更なるレベルアップにつなげていかれるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今回の訪問に行政からの同行はなかったが、日ごろの連携は取れており相談にももっていただいているということなので、今後も行政とのパートナーシップを大切にしたい。具体的な事業にも取り組んでいただきたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の活き活きた日常の様子がわかる写真がふんだんに取り入れられているホーム独自の会報「さわやか」が毎月発行され、金銭管理の出納帳、担当スタッフのお便りとともに家族に郵送されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが投書箱を設置し、玄関に苦情相談についての相談先を掲示しており、重要事項説明書にも明記しており繰り返し説明している。その結果、食事面での相談など具体的な意見を吸い上げてサービスにつなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の人事異動があるが、入居者と家族にもきちんと報告され、引継ぎもうまくなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修に参加している。今年の2月より法人主催のニュークリエイト研修(管理職員を中心に、1年間マナーを始めとした基本研修)に参加し、法人全体として職員を育成している。整理整頓、挨拶、清掃、清潔など基本的なことをあらためて気づかされることもあり、職員の意識向上が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加入しており、研究会、勉強会で習得したことは、サービスの質の向上を目指して職員全体で共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近では、町の保健所からの紹介で独居で介護サービスを利用していた方が、4月から二人入居している。町からの情報を得て「入れられた」という思いにならないように配慮し、慣れていただくために信頼関係を築くよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先輩であるという考えを共有し、昔ながらの行事のことや料理作りに、生活の知恵等を教えていただくことが多い。一緒に生活していることを実感している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに寄り添うことにより、思いや希望を把握するように努力している。入浴時職員と二人になるので、本音の思いや希望を聞き出しやすく良い機会と捉えている。意思疎通の難しい入居者には、家族や関係者からも情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの要望を取り入れセンター方式を活用し、アセスメントを含めたモニタリング、カンファレンス等を行い、介護計画書を作成し家族の同意を得て渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などを評価しながら3ヶ月に一度見直しを行っている。状態の変化がある場合にはその都度本人家族と相談し、介護計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の通院や送迎は柔軟に支援している。ホームでの対応が難しくなった場合には法人内の特別養護老人ホームを紹介している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望するかかりつけ医と連携を図り対応している。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な場合は、職員が代行する場合もあり柔軟に支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで最期は病院で息を引き取られている。終末期の入居者が町立病院の理解ある医師に恵まれて、協力を得ながら医療や看護を受け家族も来て一緒に食事をして過ごすなどした経験があり、貴重な体験だったとのこと。医療の協力、看護の体制、家族の理解があれば終末期を迎えられる支援ができるので、その人らしい最期を看取られるようになることを期待したい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼び名一つにしても、その意思を尊重している。法人として個人情報の取り扱い要綱を作成し、入居者の個人情報適切に扱っている。新人採用時には誓約書を取り、退職後もプライバシー保護の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、時間に決められた生活ではなく、体調に合わせた柔軟な支援をしている。暑い時、時には食事のメニューを変更して本人の希望に添って冷たいソーメンと温かいソーメンの好みを聞いて提供することもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と共に食事作りをし、職員も一緒に食事をしてさりげないサポートをしながら楽しい食事会をしていた。みんなで、「いただきます」と唱和してから食べ始めたり、後片付けも役割分担していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴はくつろいだ気分になるように気配りをしている。夜間にシャワーを使いたいという場合などにも柔軟に支援している。更に季節の菖蒲湯を提供するなど、気分転換を図る工夫も期待したい。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の役割分担は全員で和気あいあいと行われている。理事長の食文化を大切にしたいという思いもあり、ラッキョウや庭で収穫した梅を漬物名人の入居者から手ほどきを受けてみんなで梅干作りをして、趣味と実益を兼ねている。必ず感謝の言葉を伝えることによって入居者の喜びとなり活き活きた表情につながると感じた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、ドライブなど、季節感を感じてもらえるように努力している。歌が好きなグループはカラオケに出かけたり、映画が好きなグループは映画館まで行って鑑賞できるように支援している。全員で「武士の一分」を鑑賞した時にはみんなが感動し、帰りには外食を楽しんで来た。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りをしながら鍵をかけないで対応しており、夜間のみ防犯の意味で施錠する。日中は外部の侵入は地域性の環境からあまり心配はしていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの下、法人と合同の災害訓練を年2回実施。作成されているマニュアルに沿って、毎月初めに夜勤者が入居者と共に夜間を想定しての非難訓練を実施している。先の大雨の時には、地元消防団の要請で近隣の住民が夜間にもかかわらず、土嚢をつみあげてくれた。又、停電時の問題点が見つかったので検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事や水分の摂取状況を個人日誌のチェック表に記録し、月に一度管理栄養士の助言と指導を受けている。毎月体重チェックをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい居間は食事作りなどの作業もしやすいように配慮された設計である。ホームの冷蔵庫とは別に、入居者が自由に使えるもう一つの冷蔵庫が置いてあり便利に使っている。回廊型の建物の中庭の向こう側には、こあがりの畳の部屋があり、その部屋のガラス越しの外の景色が居間からも見えて、広々とした空間が開放感をあたえている。尚、時計や表札の位置をもう少し下にした方が入居者の目線になるので改善していただきたい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのベッドや家具、ソファなどが持ち込まれ、リビングらしい雰囲気や衣類も整理整頓してある。入居者同士がお互いの部屋を訪問しあっている。居心地の良い環境作りを心がけるように配慮している。		